







小倉山法色紙和字 号百人一首



後撰

類志 少

天智天皇 舒明孝御子

秋意田乃可りたれ為の管計ありしより在りて跡跡不れきし

新在

長くそく及きし言しし白州長衣不きとふりしれかき

持統天皇 天智牙二御子

後撰

是引山名れとの志くつおのりししと新とひりし

押中人磨

新在

田子れ浦ふらるるをさそひあれしうらるるに鳥いりし

山名山人

後撰

杉山に記書しるるの度のとてし時を枯くし

猿丸大史

中絶之家持 律若狂歌

つとづれもまはけふもく歌のひとけみき、おん法にたふ
めあつたふふふふこれ園かんひまはれれりあつら
くふすの月のはむをくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

安徳仲磨 好子

わまはるりきけはまきつたさこれ山一物一月の夜
歌しと

表撰法師

我唐冬やれらるるをせ世はらふと人いふ可り

小野小可 出都郡司當座

これの文うつり小なりぶらふ我世りわらふ世れ

おぬちの雲り唐宮はけくくすとくくくくくく
けくくくくく

蝉丸

らもやれむとくくく割つあつとくくくわあまの雲
仁明たつたつたこの園くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

春深留皇 春深亭手記

これ原半流すくくくくくく人いふくくく海れつう
丑節れくくくくくくくく

僧正遍昭 大綱 巻八

玉津風言れふくくくくくくくくくくくくくくく

けりよのみまにけりてまの

陽成院 （后和御子）

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのま

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

仁和元年みよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

之存天皇 仁明御子

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのま

中絶行軍 （后保元皇子）

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

二条の辰光のまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

風小龍田川よのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのま

在原業平朝臣 （后保元皇子）

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのま

在原敏行朝臣 （后保元皇子）

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

伊弉 （后保元皇子）

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

けりよのまにけりてまの川をたつてつりて瀬の如く

元良親王 （后保元皇子）

株

院をまたぐとさやうがわをわらふははくくちとあてふは

一歌一うた

宗性法師 通号 佐名寺村をわら

い白をこひりぬ長月のまの月のとすら出はるれ

こまこまのみまを家れす今のこと

文彦原秀

つふふれたまふれふ下はまじひく山岡とわくわくせ

大江千里 冬深き合

月むらに物もれすれ我身もつちたれはつれ

朱雀院がふふつりうりありとまにたじてふ

うらむらむれ

菅家 小野重胤

下

こふふいふふふりあせむいふふふふふふふふ

かふふふふつりうり

三条右大臣 定方 三友

すあむらわむねふれふはるるふふふふふふふ

亭子院大井川一沖幸ありとゆきとありあ

あこころなりとあをたふふ幸れううう

あこころ

貞仁公 忠平 格送 小一条大進

小倉山をのゆ葉をんあふふふふふふふふふ

あこころ

中納言通輔 則基男

あこころのふふふふふふふふふふふふふ

ふさふさのふたごの言の梅もよれなかりしよ
しめり

紀貫之

人恋の心もあはれなるに
月影をながし流るる言の梅もよれなかりしよ

清原深春文

豊前守房則也

丁夏の新まき言の梅もよれなかりしよ
世春の沖舟平や言の梅もよれ

文房朝原

先祖之孫

あはれ風も吹かぬ松の野
言の梅もよれなかりしよ

右近

少将季經

口もぬれぬ言の梅もよれなかりしよ
今も言の梅もよれなかりしよ

夫藤等

中納言希息

清原のよめとて言の梅もよれなかりしよ
言の梅もよれなかりしよ

平島威

善行男

言の梅もよれなかりしよ
言の梅もよれなかりしよ

言の梅もよれなかりしよ

言の梅もよれなかりしよ
言の梅もよれなかりしよ

清原元暁

辰志男

言の梅もよれなかりしよ
言の梅もよれなかりしよ

推中納言致忠

時平三男

わいをこれほどとていふはよき事とていひし物にあらざるなり

天曆御時平合 中納言好忠

年ふりられたるは中納言人とも男ともいふまじ

物心してつりあり女まゝのらりつり運物ゆりてま

らつとていふなり

清徳云

伊予 仲島二男
後送歩一乗抄又

わいもていふ事とていひし物にあらざるなり

新らし

曾孫好忠 寛和元年

これとていふ事とていひし物にあらざるなり

に忍院下りてわいもていひし物にあらざるなり

んがふらふらとていひし物にあらざるなり

撫廣法師

いま津志守のまれし人今も忘れぬなり

冷泉院まゝとていひし物にあらざるなり

源重之 春海色男

風とていふ事とていひし物にあらざるなり

新らし

大甲の能言 孝見教奉三男

見ればこれとていひし物にあらざるなり

女もまゝとていひし物にあらざるなり

藤原義孝 清徳子

まゝとていふ事とていひし物にあらざるなり

女もまゝとていひし物にあらざるなり

藤原美方朝臣はらけのみかた

上かしきふえりていづれにさしとまほしむるにむかしはゆりて

女メのちとてしりてあつりて

友原道信朝臣ともはらのみちのぶ

上わきまをいふやゆりてあつりてあつりてあつりてあつりて

入道播磨下りたりたりたりたりたりたりたりたりたりたり

とらつりていひていひていひていひていひていひていひて

いひていひて

右大将道経女みぎのまさねのむすめ

上能くむらりたるをわたりたりたりたりたりたりたりたりたり

中用白道隆ちゆうようのしろみちたかといふをいひていひていひて

儀同三司母ぎどうのさんしのみ

上馬に能く来たれりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

大寺寺にんていひたりたりたりたりたりたりたりたりたり

いひていひて

大納言おほののりといひていひて

上瀧乃着たれりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

和泉式部わづみのしきぶ

上あつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

あつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

あつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

あつりてあつりて

大式部 洲邊寺の侍女

あはれあはれとみやまはせりわすし雲のまじり物にぬれぬ
しほくせりやせしめりつるものしひそらにあり

大式部 洲邊寺の侍女
大式部 洲邊寺の侍女
大式部 洲邊寺の侍女

江核

ありまじりぬる原風をいそよよ人と口もれぬをすり
中用はあやかりけりすもつりあつる人よ物にひ
まじりしつりすもつりあつる人よ物にひ
かすりしつりすもつりあつる人よ物にひ

赤深右衛門 町屋の女
上まつは女

江核

あはれあはれとみやまはせりわすし雲のまじり物にぬれぬ
しほくせりやせしめりつるものしひそらにあり

あはれあはれとみやまはせりわすし雲のまじり物にぬれぬ
しほくせりやせしめりつるものしひそらにあり

小式部内侍 和泉式部女

金末

あはれあはれとみやまはせりわすし雲のまじり物にぬれぬ
しほくせりやせしめりつるものしひそらにあり

伊勢大権 倉三痛整

はなをうらむ

大徳正行の 日河流沖

春
と海にわきて 夢人の花を
二月の月あつた 春の流れて
物さうなまは けりて 月防内侍
まうと けりて きて 大徳正家
うらむ けりて けりて けりて
うらむ けりて

月防内侍 月防守正仲女
於永徳女房

千
まの けりて けりて けりて
まの けりて けりて けりて

はな
申すうらむ 月あつた
三系院御殿 於永徳
永徳正行 御殿

能因法師 俗名水鏡
長門守

はな
高き けりて けりて けりて
高き けりて けりて けりて

はな
まの けりて けりて けりて
まの けりて けりて けりて

令
夕暮れ けりて けりて けりて
夕暮れ けりて けりて けりて

いふゆりしれども秋のわ

法子同親王家記傳

合 せしふまゝたはれ濱のわと波のまや神のわきまをすれ

権中綱て這房成衛者

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

源俊賴朝臣 権信子

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

信那光覺維摩舍海神法くすりて

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

藤原基俊 俊家男 運長三夫

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

海上遠望 法性寺合開白大改志道 室山合男

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

開給平島 源益昌

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

合 せしゆのまゝなれども嘆きしるわと波のまや神のわきまをすれ

侍賢院堀川津波治仲世

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

懐中熟實之
後述寺丸實之

千
町あふりたけりゆめとみこしきたはるの月うけま

道周法師俗名熟

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

迷懐百首中道

千
世中らたうた言もかりしゆらたてたてたてたてた

藤原清輔朝臣於信子

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

依惠法師信教子

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

西行法師依名家信

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

森蓮法師

千
おのふらんやあはれきき後れをたぐと物いとしとらりし

攝政右大臣の時家神合に描る蓬糸と雲心

皇朝の流刺書

子
松波えのめれら祇の二粒ゆかひはくしとや色りあふき

新大
百首平中は思意と 式子内親王 仁壽元年

玉葉始にたすし娘祇のふりあふる事によつとをす

平合しゆりすうに色の平やとく

殿内院大輔

干
見さるやれをまは海まれ神おしあまにを重く色り

百首平中と

後東極極政大臣 仁徳天皇

新大
まろくゆりや新秋のさし海に夜とあひそりし神ん

早石急せいつくし海と

二条院瀧波 仁徳天皇

子
月神の垣下小空れ奥の石も今をあらねく申しけ

新大
野らす

世中はよりのしりぞく海まの小船のほろと海

揚志のあふ海と

養清雅紳 武元天皇

新大
みし野れ山も枯同と新文とちりつしとんとん

野らと

子
紫守れうき世れはよりあふれらるるまは聖澤の神

落花

入道おたの政大臣

新大
花はうあふれ庭も君影とつりゆりて秋の秋方うら

建保六年旧裏平合

新刊

寛嘉元年女御入御
寛嘉元年女御入御
寛嘉元年女御入御

推中納言定家 佐女三男

新刊

後鳥羽院御製
後鳥羽院御製
後鳥羽院御製

從二位家隆 推中納言定家

新刊

人を行ふも...
人を行ふも...
人を行ふも...

順徳院御製
順徳院御製
順徳院御製

日
身も...
身も...
身も...







